



平成29年度気象研究所研究成果発表会

自然を知り 自然災害に挑む

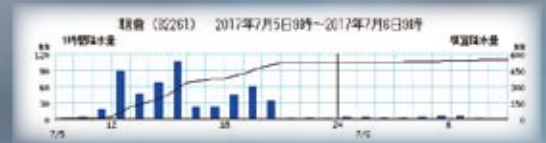
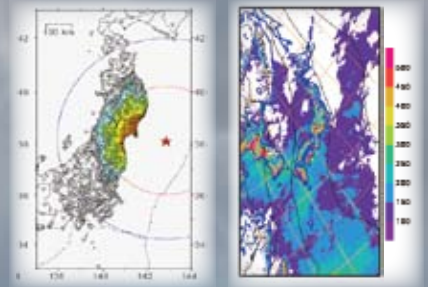
平成29年12月2日(土)

13:30～16:30 (開場 13:00)

事前申込制 (先着定員 400名)

<https://www.omc.co.jp/mriseika29/>

※参加無料



背景：西之島と噴煙（北東沖から）
 右上図：将来気候実験の7月の総降水量(mm) (20年平均)
 左上図：平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の揺れが広がっていく様子(地震発生から60秒後)
 下図：平成29年7月九州北部豪雨における降水量の時系列(朝倉)

注意報・警報等の防災情報を発信している気象庁の技術的な基盤を支える気象研究所における最新の研究をわかりやすく紹介します。

講演題目

- 気象研究所での自然災害軽減に向けた研究の最前線
隈 健一 (気象研究所長)
- 「平成29年7月九州北部豪雨」の発生要因について
- 線状降水帯の形成・維持メカニズム -
津口 裕茂 (予報研究部 主任研究官)
- 日本における極端降水の将来変化
村田 昭彦 (環境・応用気象研究部 主任研究官)
- 揺れの数値予報：次世代の緊急地震速報を目指して
干場 充之 (地震津波研究部 室長)
- 気象庁海洋気象観測船「啓風丸」で観測された西之島の火山活動
高木 朗充 (火山研究部 室長)



司会：寺川 奈津美 (気象キャスター)

会場

一橋大学 一橋講堂
(学術総合センター内)

〒101-8439

東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号



- 東京メトロ半蔵門線
都営地下鉄三田線・新宿線
「神保町」A9出口から徒歩3分
- 東京メトロ東西線
「竹橋」1b出口から徒歩4分

お問い合わせ

気象庁 気象研究所 企画室

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1

TEL: 029-853-8546

E-mail: mriseika@mri-jma.go.jp